

防コミの歩き方



できることからコツコツと…桜の宮防災福祉コミュニティ

神戸市最大の市営住宅がある街

桜の宮はJR神戸駅から有馬街道を北上、標高約370mのおひとうげ小部峠の尾根つたいに広がる住宅地帯です。この地域の防コミとして桜の宮BOKOMIは、平成13年に設立いたしました。住民8,200人の桜の宮エリアには神戸市最大の桜の宮市営住宅があります。この住宅は現在10年がかりの建て替え工事の真っ最中で昨年3分の1の住民が高層住宅への移転を終えたところです。

学校や地域と一体の総合防災訓練

地域の防災訓練としては学校と連携して1年ごとに小学校と中学校で交互に総合防災訓練を実施しています。北消防署の協力を得ながら、防コミメンバーが防災リーダーとして生徒全員に各種の体験訓練を指導しています。中学校でおこなうときは小学6年生が、小学校でおこなうときは中学1年生が参加して交流を深めています。

また昨年は地域の秋まつりの中で、災害時応急給水栓「ふっQ水栓」の設置お披露目式をおこない住民の方へ広く告知をおこなうことができました。



ふっQ水栓お披露目式(桜の宮小学校)

災害時要援護者支援活動

平成30年1月に神戸市より409件の当地域で登録申請のあった災害時要援護者の台帳をいただき、その年の4月より5回のWSを開催して10月に初めての要援護者の安否確認訓練を実施しました。訓練方法としては一般家庭を自治会が、要支援者家庭を防コミメンバーが巡回する2面作戦方法をとりました。

ただし建て替え工事のため住民の移動が著しい市営住宅在住の要援護者については後日に現住所の再確認をおこなう事として一旦対象から除外しておこないました。



災害時要援護者の安否確認訓練

今後の取り組み

今後の取り組みとしては、平成27年に作成した「おたすけガイド」の見直しをおこない地域の特性に合った初動体制に組み替えること、並びに地域の安全安心マップを作成して全戸配布することを考えています。

また一昨年度にできなかった桜の宮市営住宅在住の災害時要援護者の再調査もまだ懸案事項として残っています。

一歩ずつできることから取り組んで、息の長い防災活動を続けていくつもりです。

(桜の宮防コミ 本部長 甲斐誠三
2020年3月時点)